

## 三次市総合教育会議（第2回）会議録

- 1 日 時 平成30年1月30日（火）  
開会：10時00分 閉会：12時05分
  
- 2 会 場 三次市役所本館6階 603会議室
  
- 3 出席構成員  
市 長 増 田 和 俊  
教 育 長 松 村 智 由  
教 育 委 員 小 根 森 直 子  
教 育 委 員 藤 原 博 巳  
教 育 委 員 土 井 純 子  
教 育 委 員 深 水 顕 真
  
- 4 出席職員等  
（教育委員会）  
教 育 次 長 長 田 瑞 昭  
事 務 局 付 課 長 赤 木 実  
学 校 教 育 課 長 古 矢 俊 彦  
文 化 と 学 び の 課 長 杉 原 達 也  
文 化 と 学 び の 課 係 長 國 原 佐 知 子  
文 化 と 学 び の 課 主 任 官 西 美 裕  
（事務局）  
総 務 部 長 落 田 正 弘  
秘 書 広 報 課 長 矢 野 美 由 紀  
秘 書 広 報 課 係 長 笹 岡 潔 史  
秘 書 広 報 課 主 事 菅 原 琴 美  
（傍聴者） 13人

## 5 議事

### ○平成30年度予算について

秘書広報係長 　ただ今から、「平成29年度第2回三次市総合教育会議」を開会する。総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項の規定により、原則公開となっている。傍聴の申込みがあった場合は傍聴を許可することとされており、本日の会議について、申込みのあった13名に対し、傍聴及び写真撮影や録音を許可することとしてよろしいか。なお、記者の方についてはこの限りではない。

構成員一同 　―異議なし―

秘書広報係長 　それでは、次第2.協議事項に入らせていただくが、確定ではない資料を使つての説明となることをお含みおきいただきたい。ここからの進行は、議長である増田市長にお願いする。

増田市長 　―挨拶―

秘書広報課長 　―市長部局資料の説明―

教育次長 　―教育委員会資料の説明―

増田市長 　まず1つ目は、県立中高一貫教育校の実現の決定である。来年の4月から三次高校の中に、1学級40名の2学級で県立三次中学校がスタートする。実現するまでは、あまり公表せずに進めてきたため、皆様方に十分目に見えない状況であったかもしれないが、長年に渡る要望活動を行い、去年の9月5日に実現することが決定した。三次に色々な企業が進出する中、県立三次中学校が実現できたことは大変プラスであり、期待を持っている。三次市のみならず、特に県北一帯の子どもたちにとって、将来の可能性を見出していく、一つの選択肢ができた。三次の場合、中学校を卒業した生徒の4割程度が市外へ出ている現状の中で、三次への定着へ繋がるこ

とを期待する。

また、このまま少子化が続いていくと、青陵高等学校と日影館高等学校が、大変厳しい状況になると思う。そのような中、県立中学校が三次高校にできることによって、人を集めて良い方向に繋がっていけばと思っている。しかし、課題は複雑にある。この1年、十分検証・検討していきたい。県教委の方では、既に対策を進めており、市として支援をするべきことがあれば、率直に伝えていただきたいと県教委には伝えている。将来に向け、協力体制をとっていきたい。このような形で県立三次中学校ができるわけであるが、市教育委員会には、県立中学校との交流を深めながら、切磋琢磨していただきたい。基礎学力の定着を第一とした上で、学校現場を含め、三次の教育の充実に、真剣に取り組んでいただきたい。

2つ目は、共同調理場の件である。これは決して、教育委員会が単独で出した案件ではない。私を含めた市長部局との協議の中で、教育委員会としての素案を出してもらった。

まず1点目は、調理場の老朽化である。これを放置することはできない。これまで長年にわたり、問題があった中で今日まで引きずってきている。先般、市街地の調理場を見て回ったが、調理場について、今まで課題意識を持つべきであったと実感した。市街地の小学校については構内に自校の調理場があるが、老朽化した調理場のまま、将来にわたって使うのは、教育委員会のみならず、一般行政としても好ましくないと思っている。現地に作っていく敷地も現実には無い。他へ用地を求めていくとなると、大変な事業費も予想される。市街地周辺部においても早急に手を打たなければならない。来年度に向けて、教育委員会と連携を持って統廃合を行っていききたいと思っている。

2点目は、デリバリーと弁当持参が続いているということである。議会でも強く主張された「食育の充実」という面で、デ

リバリーと弁当を昼食にしている実態を放置している状態が「食育の充実」とは思っていない。子どもたちや保護者の方たちからも色々と意見がある中で、これを放置してはいけないという気持ちがある。

3点目は、使える調理場があるにも関わらず、全部をまとめていくことはすべきではないと思っている。使えるものは使っていき、使えなくなった時のことを想定した新たな調理場を整備していくべきだと思っている。したがって、教育委員会等と常に連携を持ち、最終的には議会と調整し、今年度末から来年度へかけて調理場の将来的な内容の検討、あるいは場所の設定等を進めていくべきだと思っている。これは、全市的に繋がっていく問題である。今年のキーワードは「発信の年」としている。三次の良さを市外へ発信すると同時に、市民の皆さんに説明責任を果たしていくということを大切にしていく。その最たる代表は議会である。全員協議会で説明し、今申し上げた状況を踏まえた中で共同調理場の整備に入っていくべきだと思っている。繰り返しになるが、使える施設は使えるだけ使っていく考えで、来年度へ向けていきたい。

3つ目は、学校の環境整備である。今年の夏、あるいは冬にかけて全小・中学校34校の空調整備を進めてきた。当然に電気量は上がるが、一方では電気料を入札したことによって、大きな削減をみている。私としては、将来への投資ということで空調整備を一気にやらせてもらった。学校現場では、勉強しやすい環境になっていると思う。ただ環境が良くなったということだけで終わることなく、子どもたちの将来へ向けた基礎学力の定着へ、強い思いを持ちながら進めていただきたいと思っている。そして来年度は今、予算の精査をしているが、来年度の教育委員会の予算で電子黒板の導入を図っていきたいと思っている。平成32年度から文科省がプログラミング教育を進め

ていく。それに備えて、平成30年度から平成32年度に向けて計画的に進めていかななくてはならない。これも大きなお金がいることであるので、教育委員会でも早い段階で計画し、協議に入ってもらいたい。しっかり問題意識を持ち、私以上に真剣にやっていたかかないと、委員の皆さんが困ることになるので、よろしくお願ひしたい。

また、施設の整備については、大きなお金がいる。ここで教育委員会へお願ひしたいのは、補助金の確保である。財源の確保を前提に考えてもらいたい。財源があるにも関わらず財源のための努力をせずにお願ひに来られても困る。財源の確保には全力を上げてもらいたいと思っている。そして、修繕費が大きな金額になる。

今年度は、教育大綱の見直しを行う。社会の変化に対して、あるいは、子どもたちの将来のために教育大綱がどうあるべきか真剣に考えていただきたい。

そして4つ目は、「子どもの未来応援宣言」である。この宣言には、可能性を伸ばし、希望を支え、チャレンジを応援していこうという3つのキーワードがある。この宣言を柱として、変化する社会に対応しながら、教育と行政とが一体となって進めていきたい。この4月から「ネウボラみよし」を立ち上げていきたいと思っている。これは、妊娠前から出産、子育て、そして小学校、中学校、高校と幅広い中で、さらなる高みをめざしていきたいと思っている。ここは是非、小学校、中学校、高校という教育の観点から、子どもたちの応援としてどうあるべきか、検討いただきたい。東館の2階に「ネウボラみよし」として相談できる体制を組み、個室の相談室も現在検討している。出産した家庭に対しては、全戸家庭訪問を実施し、その場において問題がある家庭については、2回3回とさらにフォローアップして応援していく。

その他として、教育委員会に英語教育の充実をお願いしたい。色々と実態を見させていただくと、学校現場では英検1級まで挑戦する動きや、中学校で2級を取得している子がいると聞いている。これは素晴らしいことであり、三次の一つの力ではないかと思う。英検受験の補助については、当然、来年度も継続していきたい。もう一つは、小学校をどうするかということを考えていただきたい。小学校の英検受験を教育委員会としてやっていこうということになれば、我々も一生懸命支えていきたい。その他の中で、市の学校支援員については、今年も手厚くやっていこうと思っている。

そして、今年度から「みよし版わくわく体験活動推進事業」を実施している。やはり、「ふるさと教育」と言葉で言っただけでは駄目である。ふるさとにはこういう良さがあるということをも市内一円に渡って子どもたちに学ばせてほしい。そのために、県では廃止された取組であるが、市として進めさせていただいている。

また、「特色ある学校づくり創造事業」については、学校現場でぜひ意欲的に取り組んでいただきたい。均等割りで配布するような考えはない。助成の大小は、あっても仕方がないと思う。学校の意欲を持った取組をお願いしたい。

その他として、子どもの活躍が素晴らしかったと思う。鈴木三重吉賞をはじめ、全国・広島県・団体等から、賞を受賞し頑張っている。地方へ住んでいても頑張っていけば、大都会の子どもと同じように、力を発揮できるように支えてもらいたいと思う。

最後に、今現在、江戸幕府の財政を支えた石見銀山街道を日本遺産として申請している。これは、現在の島根県大田市から尾道市までの7つの自治体に係る街道である。また、来年度は全国創作人形公募展がある。子どもたちに係るところでは、「真

田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」「ジュニアアスリート育成支援事業」「子ども文化芸術ふれあい事業」，スポーツ少年団への補助金等で補助をしている。また，映画の上映を毎月やっているが，来年度は，年に4回くらいを子ども向けの映画上映を考えている。安くなれば4回でも5回でもしたい。子ども議会の中でも映画上映を希望する意見があった。以上，長々と申し上げたが，今年度そして来年度に向けた私の考えを申し上げます。

松村教育長　総合教育会議というものの自体は委員の皆様もご存知のように，地方公共団体の長である市長，それから教育委員の皆様とともに十分な意志の疎通を図り，三次の教育の課題や，あるべき姿を共有することがそもそもの趣旨である。したがって，教育に関する予算の編成や執行状況等について説明をいただいたのもその一つである。普段私たちは，月に一回の定例の教育委員会会議を持たせていただいているが，特別支援教育のこと，外国語活動，英語教育，文化芸術，さらには，体験活動が今の子どもたちを育てていくという熱い意見も含めて，予算化を図っていただいている。とりわけ，三次市の教育に対する予算というのは，全県の教育長会へ出ても，高い評価をいただいている。他に先んじて色んなことを取り組んでおり，さらには膨大な教育予算もつけていただいている。最近では，ひとり親家庭等の入学支度金等の事業を進めているが，入学前に支給をし，4月からしっかりと学業に専念していただくための支援をしている。これも県の教育委員会で高く評価をいただいている。

また，先だって，「三次教育フェスタ」を1月28日に行った。これは実行委員会形式で行ったものであるが，ここに登場してくれた小・中・高校生が，三次で育った子どもたちの姿を

象徴しているものでもある。「子どもの未来応援宣言」へ繋げていくためにも、保育所、幼稚園、ネウボラも含めてであるが、さらには高等学校以降の大学や社会人として生活していくことにも教育が大きく関わっていく。教育の果たすべき役割は大きい。これらを踏まえて、私から3点、お願いしたい。

まずは、英語教育についてである。「がんばる中学生の英語学習応援事業」で、英検の補助を行っているが、昨年は245名の受験者に対し、今年度は、543名が受験をしている。受験する人数も高まってきているところである。今は、4級からの補助としているが、来年度、可能であれば5級からもしっかりと受けていくような形をとらせていきたいと思う。

なお、市長からも、小学校での補助の話をいただいたが、学校によっては、もう既に小学校6年生で5級を受けさせたいという小学校もあり、計画的にチャレンジをしている学校がある。また、こういったことが特色のある学校づくりへも反映していると思う。

2点目は、「みよし版わくわく体験活動推進事業」を継続してやっていきたいと思う。このことにより、子どもたちが三次市内にある施設で色々な経験をすることができている。例えば、カヌー公園はもとより、甲奴町のプラネタリウムなど各地域がもつ特色を新たに発見しながら、可能性活動の一環として実体験を踏まえて、高めていけるということであるので、しっかりと活用していきたい。

3点目であるが、特に長期休業中、学校に子どもたちを来させて、学校の教員が一人一人に丁寧に指導していくことができる環境を整えていただいた。そういうことを意識しながら、各学校でも来年度から全校で活用していこうとしているところである。

また、電子黒板の話も出たが、プログラミング教育もこれか



ら始まっていく。併せて、英語の教科化も始まるので、しっかりと電子黒板の活用も考えていこうと思っている。今、英語教育については、先行的に甲奴小学校で本格実施前の試行を進めている。これを三次市内へ広めていきたいと思う。電子黒板の活用も広がっているので、小学校でも必要であればタブレット等も併せて考えていき、電子黒板がより効果的に使えるような形をとっていけるよう、教育委員会としても考えていきたいと思う。

また、平成30年度は、教育委員の皆様とともに、新教育大綱を作る年である。しっかりとこれまでを振り返りながら、さらに三次の子どもたちに、そして三次に生まれ育って、またこの三次で暮らしていこうということへ繋がっていくような教育大綱をめざして、考えていきたいと思っている。

それでは、委員の皆様からご意見をいただきたいと思う。

小根森委員 先ほど教育長からもあったが、予算を本当に手厚くしていただいている。市長が話されたことについて、述べさせていただきたいと思う。

まずは、1番目の教育大綱についてである。今ということはないが、教育の現場はすごく変わってきており、大学入試も大幅に変わってきている。教育が変わる中で、少しずつ変えていかなくてはいけないと感じる。市民の皆さんの意見も取り入れながら、変えていかなくてはならないと思う。

2番目の学力の向上であるが、英検を補助していただいていることは子どもたちにとって、大変プラスになっている。先日のスピーチ交流会でも「英語が嫌いだったのだけど、英検を受けようと決心をしたら、学校で英検のための学習会をしてくれた。それによってだんだん英語が好きになってきている。」というようなスピーチを聞いた。このように、この英検というの

は大きなきっかけになってきているので、ぜひ小学生まで拡大していただけたらと思う。

そして、共同調理場については、私も管理栄養士であるが、すごく進化している。安心、安全面が大切であるが、温かいものを温かいうちに運べるようになってきている。先に進めていただきありがたいと思う。

それから、「みよし版わくわく体験活動事業」については、教育長も言われたが、先日の「教育フェスタ」においても、「みよし版わくわく体験活動」の発表があった。自然体験はもちろんだが、家庭においては、洗濯や食事作りも全部自分でして、子どもたちで話し合っただけの献立を考えるなど、本当に素晴らしい体験をしている。とても価値あることだと思う。最後に子どもたちが「みよし版わくわく体験活動」で得たことを発表した時に、「感謝」であると言っていたことが心に残っている。親に対する日頃の感謝の気持ちを堂々と述べている姿に本当に感動した。

次に、平成32年から始まるプログラミング教育についてである。ICTの充実については、予算を計上していただき、ありがたいと思っている。私たちはやはり、先生方の教育の中身をいかに充実していくか考えなければならない。プログラミング教育とは、パソコンのプログラミングに関する基本的な土台を作るものだと思う。本や教科書などの紙媒体でも教育ができるということではあるが、そこにこの電子機器を充実させていくということは、大変良いことだと思う。ただ、先生は、今小学校に英語が入ってくることで、英語の教育に対して大変苦勞されている。そしてまた、プログラミングの教育が入ってくる。ここはやはり市民の協力もお願いしていかなければならない状況になってきているように思う。

また、先日の「教育フェスタ」は、平成25年に、「明日の

三次教育創造懇話会」を開催した時集まった方々が、こういうことをやってみてはどうかということによって生まれたものである。この「明日の三次教育創造懇話会」のようなことを何年かに1回はしていただき、市民にもっともっと入っていただきたい。

そして、小・中一貫教育校が今や全国的に普通になっているように、これからおそらく全国的に普通になっていくだろうと思うのがコミュニティスクールである。なかなか難しい面もあるとは思うが、モデル校として1校作っていただきたい。これだけ地域の皆さんの力を借りての学校教育、そしてみんなで教育を考えていく時に、モデル校があると良いと考える。

最後になるが、市長が今年は「発信の年」にすると言われた。教育についても、もっと発信しなくてはいけないと実感している。広報でページをいただいているが、それもできれば毎回、子どもたちの受賞や学校での行事、また地域の方がこんなことをしてくださっているということなどを随時発信できたら良いと思う。また、総合教育会議の議事録なども継続してホームページに掲載するようにしていただきたい。

増田市長 今年「発信の年」であることから、広報紙に各部で率先して記事を提出してほしいと市長として要請している。シリーズ物でも単品でも、市民への啓発として積極的にやっていく。広報のための予算が不足したら補正予算で組んでもやっていく。

それから、平成32年からのICTのプログラミング教育は早めに段取りをしていかなければならない。直前になって慌てふためくのでは間に合わない。相当な予算が必要になってくることも考えて、是非早い段階での検討をお願いしたい。

そのためにも、よく専門家と話しして、市内でそういう教育に詳しい方がおられるなら、その方の話をよく聞いて、進めてい

ってもらいたい。

土井委員 私からは、2点述べさせていただきます。

個人的なことになるが、もう少しで3歳になる孫がいる。母親は、市外から布野へお嫁にきてくれたのだが、最近「三次って、子育てのしやすい市ですね。」とよく言うようになった。息子は県外に出ているが、「4月から、もし三次へ帰ってきたら、布野で一緒に住んでも良いかな。」と言ってくれるようになった。医療費のことなどもあるが、「みよし森のポッケ」を随分気にしている。「みよし森のポッケ」やその近くの公園へ子どもを連れて行き、遊んでいる。この間も遊びに行った際に、子どもたちが大きい子どもたちが乗る遊具から離れず、仕方なくその遊具に乗せたら、大きい子どもたちが小さいから降りろとは言わずに「小さい子が落ちたらいけないから、あまり力を入れて回すなよ。」と声をかけてくれた。そういったこともあり、三次でずっと子育てをしたいと思うようになったと話してくれた。三次の中ではそれが当たり前のように思っていたが、市外から来た人からみると大切にされている、新鮮だと感じるようである。今日の資料で、ブックスタート事業などもあり、読書教育にも力を入れておられ、きめ細かく配慮いただいていると思う。

もう1点は、私が作木で教員をしていた時の子どもたちが、今は30歳を超えた年齢となっているが、ある時、その保護者の方とお会いした。その方との話の中で、「息子が、作木が好きだから理屈ではなく帰りたい。作木の中で自分の子育てをしていきたいと言っている。」と聞き、大変嬉しく思った。何がその子をそういう思いにさせたのかと考えた時に、やはり地域で育ててもらったという意識が、子どもたちに強く残っているのだろうと感じた。また、ある時は、電話がかかってきて、「子

どもたちに浜原にダムができるまでは、作木にも食べられるカニが上がってきていたと話したところ、川には食べられるカニは育たないと言って信じてくれないので、浜原まで行ってカニを取ってきた。先生、今子どもに食べさせる準備をしているから、連れて来てくれ。」ということで行ったところ、お父さんたちが石を積んで、子どもたちに火をおこさせていた。そして、子どもたちが生きているカニを「ごめんね。ごめんね。」と言いながら、大きな鍋に投げ込んでいた。それを親子と地域の方で食べて、そのようなことが年に何回とかではなく、日常的にあるところである。横谷にいた頃も、子どもが川遊びをしたことがないと言うと、校長先生が草を刈って準備して、半日川で一生懸命遊んだ。最後には川上の方から、地域の方がスイカを流して下さった。昔は、そのような繋がりがあった。そうはいつてもなかなかそういう繋がりを持つことが、難しい実態もできている。故郷が好きで戻ってくる、というような子どもを育てる教育を是非して欲しい。地域も学校も手を携えてやっていけたら良いなと思う。そのいろんな体制的な面は、非常に力を入れていただいております、ありがたいと思う。

藤原委員        まず、特別支援教育の推進事業やA L Tに関して等、確定していない状況であるが、予算をつけていただいております、ありがたいと思う。

毎年、教育委員の中で面接等をさせて頂いているが、教員になる方の資質等といったところをもう少しレベルアップしてほしいと思う。子どもも含めてであるが、三次に来て、教員になりたいという流れができつつある。良い教員採用をしていかななくてはならない。

また、電子黒板やI C Tそして空調関係等、ただ環境整備をするだけではなく、I C Tで言えばそれを使いこなせる教員の

育成も重要である。せつかくやってもそれが使いこなせないのであれば、意味がない。100%、150%使いこなせる教員を育てていくべきである。

それから、調理場再編については、これに伴い農林・畜産業のふれあい体験学習や、スクールファームで子どもたちが食品を作るなど、その話をする機会も増えていくと思う。そういった中で、地産地消のことも説明されると思うが、出来れば子どもたちが作った野菜や農産物を給食の中に取り入れるなど、そういった学習を是非してほしいと思う。

そして、2020年の東京オリンピックに向けて、これからスポーツへの注目度が上がってくると思うが、三次市においても、メキシコオリンピック選手団の合宿地ということで、そうした中で、子どもたちにふれあいの機会を作っていただきたい。本物を見せてあげられることは、子どもたちに大きな夢を与えてあげられる大きなチャンスだと思う。有効活用できるようにやっていただければと思う。

深水委員 3点ほど、お話をさせていただきたい。

1つ目は、市長が話しされた県立中高一貫教育校についてである。これが出来たということは、三次の教育にとって、非常に大きな刺激になっていくだろうという気がしている。今まで出ていった子どもがとどまっていくことや、外から入ってくる可能性がある。様々な形で空気が変わってくるだろうと考えている。本当に良かったと思っているが、通学環境について気になっている。どうしても公共交通機関が乏しく、通学方法が限られてくる中で、近くても行きにくい、通いにくいということが出てくると思う。細かい話であるが、例えば、芸備線を考えると、三次では「イコカ」が使えない。広島からなら使えるが、そこから先は使えない。通学定期が「イコカ」になるのか、印

刷の定期になるのかで大きな違いがある。「イコカ」定期の場合は、再発行がすぐにできるが、印刷定期は再発行がほぼ効かない。そうすると、失くしたときに数万円単位の定期が、印刷定期であればパーになり、「イコカ」であればすぐに再発行できる。これは、直接は市の関係ではなく、JRの管轄であるが、そういった所にしっかりと働きかけてくれば、通学環境が少しでも変わってくるのではないかと思う。

2点目は、ICTについてである。電子黒板を入れていただくことは、非常に良いことであるが、以前、ICTのことを色々勉強させていただいた時に、富山県の山田村という所に、1995年くらいに何度か視察に行かせていただいた。村全体にISDNをひいて、コンピューターを1軒ずつ配ったという村であるが、そこでは、全部配り終わったら、機械が古くなっていったということであった。とにかくスピードが大切である。その所をどう対応していくのかということは、なかなか予算で対応するのは難しいだろうという気がしている。例えば私の思いつきなので、どこまで可能性があるのか分からないが、市長が言われた補助金の活用という中でも、特に「官」だけではなく、もう少し「民」とのタイアップの可能性もあるのかなという気がしている。例えば、マイクロソフトやアップルなどの、大手のアカデミックサポート。学生時代にコンピューターを使わせることによって、将来顧客に取り込みたいという企業意思があるのだろうと思う。そういった資金を上手く活用して、資材や人材を上手く活用していけば、例えばプログラミングといったところへ繋げていけるのではないかと思う。ただ学校教育という中で、どこまで企業とのタイアップが可能なのかは難しい問題であると思うが、大学などでは割と前例があることなので、是非研究していただけたらと思う。

もう一つは、英語教育についてである。先ほどから、諸先輩

の委員の方が言われたように、英検の補助は本当にありがたいことである。是非小学校まで、拡充していただきたいと思う。また、A L Tが非常に充実しており、外国の方と話ができる環境が学校の中にあることはとても良いことだと思う。去年いくつか学校訪問をさせていただいた中で、A L Tの英語の授業にも参加させていただいたが、一つだけ気になったのが、A L Tが様々おられる中で、当然その方独特の英語の訛りがあり、いわゆる文部科学省の標準英語との間でギャップが生じてきているところがある。例えば、特定の名詞の前に「T h e」を付けるか付けないかで、先生とA L Tの間で意見が相違したことがあった。それを、先生はそのまま流したが、それは悪いことではなくおもしろいことだと思う。色んな英語があるのだということも一つの学びになっていって行くのではないかという気がしている。ただ、あまり変なことを教えていくと、英検の点数が取れなくなっていくが、せっかくこうやってネイティブの方に習っているのであるから、そういう所を上手く活用しながら、英語の幅のようなものも伝えられたら良いと思う。先生方もその部分を上手く大きく懐を開いて受け入れてくれればと思う。

増田市長 将来に向けた良いお声のご意見を頂戴しありがたく思う。また、教育委員会議の中でも協議していただきたい。

その中でも、通学対策は、重要であると思っている。まずは、J R 三江線の廃止に伴い、代替バスの定期券をJ Rと同等の金額で決めた。保護者の方からは「良くやってくれた。」との声を聞く。また、これは3月の終わりでないと明言できないが、来年度、モデルケースを作って、料金とダイヤを考えていきたいと思っている。具体的には、高校のクラブ活動が終わっても間に合う時間帯に増便しようと考えている。内部では中学校を



含めてやれば良いのではないかと話をしている。市内の高校3校のそれぞれの時間的な面もあるため、一概にそのようになるかは分からないが、いずれにしても、高校通学について、今まで支障のあった料金とダイヤの問題を解消していきたい。運輸局との関係もあるので、今はっきりとは言えないが、モデル的に打ち出していこうと思う。それを基にして、平成31年の4月から開校する県立三次中学校を含め、料金体系と予算をしっかりと検討していきたい。料金については、例えば、ひと月に定期代が4万円のところを2万円や1万5千円にした場合、ものすごく損失のように思うが、4万円にしても誰も乗らなかったが、1万5千円にしたことで10人乗れば、無賃収入が上がるという話を進めている。来年の4月以降、モデルケースで上手くいけば、全市的な広がりを検討し、保護者の負担の軽減をしていきたいと思っている。

そして、オリンピック関係では、メキシコ側から「三次の子どもたちと大人も含めて、一緒に練習していきたい。」ということ強く求めてきてくれている。ぜひ市内の子どもたちや陸上の子どもたちと一緒に、合同練習ができる機会を作れるよう努力していきたい。

それから、環境整備にも力を入れていきたいのだが、そのためには、教員の方に新しい分野での知識を持って実践してもらう必要がある。これが一番の課題であると思う。ITにしても英語にしても、民間の力を借りていきながら、教員の方にそういった面の質の向上を図ってもらうのが大事なのではないかなと思う。そのために予算が必要となれば、計上していかななくてはならないと思っている。

また、土井委員が言われた「子育てしやすいまち」これは、ひとつの負担の軽減ということではなく、トータルで三次で子育てをしていかななくてはならないと考えている。例えば、医療

費とか保育料の負担のみならず、「相談できる」ということが大事であると思う。「ネウボラみよし」も、そういう面で作っていかうとしている。また、地域子育て支援センターや他の自治体にはない「発達支援センター」も今、旧栗屋西小学校で教室を持ってやっている。そういった自治体は、県内でもほとんどない。子育てをしていく中で不安を持ったときの受け皿として教室を開いている。合併後も子育てには力をいれてきた。それらを蓄積して、遊びの場も含めて整備をさせていただいているが、「（仮称）湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）」の中にも子どもたちが喜ぶような姿をIT技術の中で描いていきたい。

それから、「みよし版わくわく体験活動事業」について、お話いただいたが、子どもたちに故郷の良さを色々な問題点も含めて、体験させたり、見させていくことが大切だと思っている。所得の問題もあると思うが、やはり我々が親の世代に子どもたちに農業というものを体験させていなかった。やはり子どもたちには体験させていくべきであって「みよし版わくわく体験活動事業」というのは、1年や2年で止めるようなものではないと思っている。

色々と貴重なご意見を頂戴してありがたく思う。次の総合教育会議では、平成31年度から平成33年度の三次市教育大綱についての確信的な話を進めさせていただければと思っている。

松村教育長

先ほども話があったが、ここから先の論議については定例で行っている教育委員会に持ち帰り、各委員からもまたご意見をいただければ、更に深めていけると思う。

まず、プログラミング教育については、多くの教育委員からご意見をいただき、ヒントもいただいた。教育委員の力を借り

ていくのも大事なことである。このプログラミング教育では、プログラミングの仕組みを知り、最終的に論理的な思考力などをしっかりと鍛えていくことへ結びつけることが、一番重要な点であると思う。また、この中身についても、一緒に検討させていただきたいと思う。

それから、コミュニティスクールの話もしていただいた。地域の教育力を持って、学校をやっていくのは昔から当たり前のことであるし、地域があって、子どもがいて、学校ができたということから言うと、コミュニティスクールは、もともとはそういう力が地域にあったものだと思う。それをあえて、こういう形でやっていく方法も検討されてきたということは、やはり学校が、本来のあるべき姿である「地域の中の学校」であるという所をもう一度考えていくきっかけになっていくと思う。今、この三次市内でもコミュニティスクールの形に完全にするかどうかというのもあるが、それ以前に、また地域の方へも「力を貸して下さい。」と呼びかけをしながらやってみようという動きがあり、「力を貸すよ。」という地域の方もいらっしゃる。また、そういうことも含めて、色んなやり方や在り方を考えていきたい。

また、地産地消についても、調理場の件で話があった。例えば、子どもたちが育てた野菜を使って、それを現場で実際に試食してみるというようなことや、学校でグリーンカーテンを作ったとか、できたゴーヤを家に持ち帰ってお茶にしてみるとか、色んな工夫もあろうかと思う。地産地消も幅広い方向での考えを持っていきたいと思う。

それから、ALTの発音については、我々に方言があるのと同じように、そういう話し方もあるということの一つのきっかけにし、学習の材料として使っていくということで、もっともっと深い意味での国際感覚を身につけることに結びついてい

くのではないかと思う。私も今回、アメリカス市へ行かせていただいた際に、向こうの教育長の言葉に訛りがあったため、聞いていて分かりづらいこともあったが、実際の訛りというものを経験することができた。市長も言われるように、「民」の力を借りてやっていくようであれば、それも視野に入れ、また教育委員のご意見もいただきながら、検討を深めていきたい。

秘書広報係長      事務局からご連絡をさせていただく。今年度の総合教育会議は、今回で終わりとさせていただき、来年度は、次期の教育大綱の作成を行っていく年になる。今年度に比べ、開催の回数を増やさせていただくので、ご負担をお願いするかと思うが、よろしくお願いしたい。次回の総合教育会議については、4月以降にご連絡をさせていただきたいと思う。

以上をもって、平成29年度第2回総合教育会議を閉会する。